

## 将真頭山

2012年12月9日(日)

リーダー：廣瀬 メンバー：高木、池田T、ふじ

151号で現地に向かうが、長野、愛知県境の峠手前から路面にウツスラ積雪。  
飯田からは本格的な吹雪となる。

登山口手前の小黒川沿いのキャンプ場にゲートがあり、車を駐車。

ゲートで10cm程の積雪。

ゲートから30分で登山口。

登山口から樹林の中を進むと、徐々に積雪が増す。

我々より10分程前に、地元の労山2人組み（会名が聞き取れなかった）が入っており、馬返しまではトレースを進む。

馬返しでは、深いところで積雪50cm。フカフカのパウダーで、ここ数日で降ったものと思われる。

そこからすこし進むと2人組みに追いつき、ラッセルを手伝う。

彼らは大樽避難小屋で引き返したが、我々はワカン（池田はスノーシュー）を装着し前進。

深く挟まれた登山道に雪が吹き溜まり、フトモモほどのラッセルに苦しむ。

信大ルートから標高差で100mほど進んだ尾根上で、全員燃え尽き下山する。

・151号の新野峠は長野県側は融雪剤をバッチリ撒いてるが、愛知県側はそうでもないで注意。

07:15 ゲート

07:45 桂小場 登山口

10:30 馬返し

11:45 大樽避難小屋

12:15 信大ルート分岐

13:00 標高2200m付近

15:15 登山口

15:45 ゲート



小黒川溪谷キャンプ場から先は通行止め。  
ゲート手前のスペースに車を停める



桂小場の登山口を目指す。  
建物は信州大学演習林の宿舎



カラマツ林をジグザグ登る道。



地元の2人パーティーに追いついて共同ラッセル。



大樽避難小屋は十分使える。



雪が深いところでは太もも程度のラッセル。

(文 廣瀬 / 写真 高木・池田)